

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 10 日（木）18：30～20：04

場 所：共和公民館

出席者：8 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（１）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（２）自由懇談

4. その他（情報提供）

（１）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：本町は錦地区など色んな計画があるようですけれども、角田地区、継立地区。そういう部分でなかなか触れられてないんですけど、継立小学校、やっぱり自分がいたころは、今の 5 倍くらいの生徒がいたと思うんですけど、栗山の人口が 5 分の 1 になったわけじゃなくて、特に角田なんか見ますと、非常に空き地、ちゃんと商売やっているところもありますけれども、非常に寂しい。当然子供たちもいなくなっている。継立も含めて角田地区などの取り組みと言いますか、その辺のお考えが何かありましたらお聞かせ願えますか。

町長：まず継立地区の方からお話ししますと、まだ正式決定ではないのですが、懸案となっていた継立中学校の跡地の関係で、これからちょっと詰める作業と議会の所定の手続きがいるんですが、やっと活用していただける企業が決まったということで、大阪の企業ですね。色々観光だとか福祉の方にも進出している企業でありまして、かなりしっかりとした企業なんです。継立中学校のグラウンドを、かなり広いんですけど、そこで屋外のキャンプ場をやると。そして校舎を使って、今コロナの関係でシェアオフィスとか、東京にいなくてもこちらで仕事ができるようなスペースを校舎を使って作ったり、色んな事業展開を考えて頂いてる企業さんからご提案がありまして、早ければ来年の 7 月にはオープンできるんじゃないかというところまで来ましたので、継立は南部地区の拠点ですけども、そこがこれからの継立地区の賑わいの拠点になっていくだろうという風に期待しております。先日地域の方にもお話しさせていただいたところなんです。それとさらに来年ぐらいからは公営住宅の建て替え時期も迫っておりますので、そういった継立の都市機能を活かした整備もこれからやっていくという計画になっております。それが 7

次の計画の中での継立のメインになってくるというところです。それと角田なんですが、今ご指摘の通り角田小学校の児童数もかなり減っておりますし、過去に沿線にあった商店などもかなり少なくなってきた状況でありまして、私共としては、国道 234 号、こちらの共和地区にも絡んできますけれども、234 号の 4 車線化。そして、角田の手前から由仁の古川までショートカットするバイパス整備。これを 20 年来国に要請をしていたんですよね。なかなか国の予算等の関係もあって採択されない状況だったんですが、今年の北海道開発予算にその国道 234 号に関わる調査設計費がついたんです。これから事業が進んでいくきっかけができたという風に考えていまして、今我々が北海道開発局とすり合わせていく整備手法は、軒並み 4 車線化という事業は予算がつきにくいんですね。改築予算だとかネットワーク系の予算と言われているんですが。それで岩見沢の方から来ますと、桜丘を過ぎて駅の方に曲がっていく交差点ありますよね。そこだとか、栗山公園から天満宮さんの方へ右折する交差点。さらに大鵬のラーメン屋さんのところの交差点。さらにもう少し進んで栗山赤十字病院の方に曲がっていく交差点。あとは三栗線のところの交差点、高校のローソンの所の交差点だとか危険な交差点、事故が多い危険交差点がこの 234 号線上に 7 つあるんです。そして北海道開発局とすり合わせをして、その交差点を拡幅改良していくと。そして最後に全部繋げて 4 車線化に持っていきたいと、そういうお話をさせて頂いています。それと併せて、バイパスの関係は過去に町としても苦い思い出があって、バイパスもある程度事業実施が決まっていたんですが、地域との色々な関係があってそれ以来滞っているんですが、こちらの 4 車線化の部分とバイパスの部分と同時に進めて頂くように、今地元の期成会もできましたので、また強く要請していきたいと思っています。ですから、今一つ交差点の事業が始まってきたということは、また次々と来ますので、時間はかなりかかると思うんですけど、進んでいくのではないかなという風に思っております。それでこの共和地区の方には、過去から白地の地区といいますか、国道沿いのところですけども、そのような用途指定をさせていただいているんですが、4 車線化が進んでいくとそこも前の計画で使わせていただくような、そんな時期も近い将来来るかなあという風に考えています。そこで、角田地区の話になるんですが、バイパスを通すと多分道道になるんですね。そこが、バイパスが出来て道道になると、その間の町道の整備だとか都市計画事業、こういったものが町の事業としてやっていくことになりますので、このバイパスの整備に合わせて少し角田地区の都市計画事業が進められるのかなという風に考えています。もう用途区域は角田の都市計画区域に入れてるんですよね。あとは国道の整備などの実施を待って、具体的に角田の地域づくり、都市基盤整備、これを進めていくということなので、まだここ 1、2 年の第 7 次総合計画の期間内に角田地区の整備が進むということにはならないと思いますけれども、今言ったような国道・道道と併せて整備を進めていきたいと思っています。

町民：234 号線のバイパス整備の事も聞こうと思っていたんですが、今併せて説明していただきました。いずれにしても角田地区については長い目で見ましようということですね。

町長：栗山の発祥の地でもありますし、泉記念館、開拓記念館、そういう文化的な地域でもあります。そして苫小牧方面、そして夕張、継立と 3 方向に分かれるところがありますけど、昔から角田は交通の要所だったんですよね。ですから、私はもしバイパスなどが整備されたときには、発展の可能性のある地域かなというふうに思っていますし、4 車線化されると、企業がある程度張り付いてきますので、そういったところにも期待をしていき

いなというところです。今、岩見沢から来た4車線化というのは、栗沢の市街地から最上のところまでの区間が最後の工事が行われたんです。あれが4.7kmあるのかな？あれが色んなものを入れたら18年かかったんです。栗山の4車線化の区間がバイパスも合わせたら大体10キロくらいなんですよね。だからその栗沢を事例にあげると、その倍くらい大体30年くらいかかるかなという感じはしますけれども。来週の月曜日15日には、まず札幌開発建設部と北海道開発局の方にしっかりとお話をさせて頂いて、そして今月の末には僕も期成会の皆さんと一緒に上京して、国土交通省と北海道選出の国会議員の先生に要請をさせて頂くことになってます。色々と動いてくれる方がいて、もしかしたら今の国交大臣に会えるかもしれないという話もありますので。栗沢の方でやったようにゆっくりやってたらそのくらいかかりますので、もっと重点的に予算を配分していただけるように強く要請はしていきたいなと思っています。

町民：今、早めにできそうな7箇所の交差点いくつか挙げていただきましたけれど、具体的に7つ言って頂けるとありがたいのですが。

町長：まず駅前に入っていくところの交差点。あそこは右折するレーンがあるんですけど、ただ距離が短くて、イベントなどがあつたら渋滞になるんですね。まずその交差点を拡幅改良して、その次が栗山公園の天満宮の方に入っていくところの交差点ですね。そして大鵬のところの交差点。そして栗山赤十字病院に曲がるところの交差点。そして三栗線のところに入っていく交差点。あそこも右折レーンとかあるんですけどもまだちょっと狭くて、冬場は大型車両なども多いものですから、事故も多いんですよ。それとローソンのところと、角田の角田橋のところですね、3方向になっているところ。その7つですね。ただ最後の角田橋のところは、中々あれ以上は難しいところがありますけれど、あそこを除く6つを拡幅改良して、それをつなげて4車線化にする。こういった手法をしている国道もあるんですよ。国道12号で今滝川の方で過去にそういうやり方をしていたんですよ。だから栗山もそういうやり方でやりましょうっていうすり合わせをしているんですよ。そういう交差点というのは、交差点の改築費用じゃなくて、交通安全対策予算でつきやすいんです。まずはそれで繋げようということです。

町民：町長さんの話を聞いていたら、以前の提案と似た考えを持っておられて、非常に漸進的だなと思うんですね。こういう表現は悪いんですけど、角田の地域を十分にまとめることができなかった、そういう面があつたんです。あの時開発の方へ陳情に行ったんです。国や道議のところにも陳情に行ったんです。その時の契約図も出てるんですよ。だからその時の契約に基づいて整理していき、そしてやはり角田は栗山の発展そのものだった歴史もありますし、新しい進め方も大事だけれども、そのこともすることによって、栗山町の人間性というものが幅広い中で深く理解してもらえと思うんです。その考え方に基づいて推進していただけたらありがたいと思います。そして今鉄道がないですから、フェリーに乗って苫小牧の方から貨物牽引車がたくさん走るんです。時間帯によっては交通量が非常に多いんです。ですから、これからの時代国鉄は元に戻らないので、貨物は陸路で輸送されると思うので、町長さんの考える進め方で進めて頂きたいと思います。そしてやはり、色々な事情があるかもしれないけど、国有地、国道というのはやっぱり自治体に少しでも多い方が、現実的、将来的に有利な方向に進めていけると思う。そういったことを基本的に考えて進めて頂けたら、栗山の発展にも繋がっていけるのかなと思います。

町長：ありがとうございます。当時色々のご尽力いただいたということで、言われた通りあ

るんですよ設計図が、バイパスのですね。ですから私どもも、国に行くときにそれを持っていくんです。ちゃんと札幌建設部作成って書いてあるんです。そしてこういう風な計画あったんですよと言うんですけど、やっぱり言われる通り地元で揉めると、もうそれで終わりになるんです。もう一切国は事業を進めませんので。それはもう終わった話ですよということで片づけられちゃうんですけど、一応は持って行ってるんです。だから仕切り直しのような形にはなってますけど、先ほど言った交差点改良から 4 車線化に持っていくのと、バイパス整備を並行して。順番にやっていくと 30 年かかります。予算区分が違いますから、交通安全対策と改築予算が違うので、同時並行で進めていけるような形で強く要望していきたいなというふうに考えております。言われた通り今、苫小牧からかなり多くの大型トラックが走ってまして、ここ 234 号は一日 1 万台近く走ります、上下線です。そのうち 2 割くらいはトラックなんです。だからかなり道路も傷みますし、交通安全上も危険を伴いますし、なるべく早く 4 車線化かバイパスを作って交通安全対策も含めてやっていく必要があるだろうという風に思っております。年間で、この 234 号の 10km くらいの間で、30 件くらい交通事故が起きているんです。人身事故が過去 3 年間で 10 件、そのうち死亡事故が 2 件起きているんですよ。本当に交通量が大型車両含めて多いものですから。そして先ほどご説明したように、右折レーンが無くて追突に遭ったりとか、交通安全上も非常に危険な国道なので、そういったことも理解していただいて、何とか動いてしっかり要望していきたいと思います。期成会にはそうそうたるメンバーが入って、町を上げて強くやっていこうとなりましたので、しっかりやっていきたいと思います。

町民：今大きい車の話出て、栗由線で見たらすごいんですトレーラーが。かなり追い越しして。道路だから入るなというわけにはいかないだろうけど、当初の計画だったら大型車は入れないというので作ったと思うんですけど、なるべくですけど、ああいう大きな車は入れないようにお願いできればな。すごいです、見てたら恐ろしくなる。既定の速度で走っていない。

町長：通り道としては由仁側から来てちょうど栗由線に入りますよね。そして役場の所から右折して南大通を走って三栗線に入っていくルートなんですよ。逆のパターンも同じなんですよ。なかなか交通の制限をかけるというのが難しいですが、今度その 234 号の改良工事が進んでいくとこっちを通ることになりますので、栗由の方は通らなくなると思うんです。

町民：コロナの 3 回目の接種というのはあり得るんですか？

総務課長：3 回目接種は今準備している最中です。皆さんもう打たれていると思うんですが、2 回目の接種をした後、国の方からまだ細かな指示は出てないんですけど、おおむね 8 カ月を経過した後に 3 回目の接種をしますよということで、メディアで報道されています。栗山町の場合、早い方は 2 月 7 日以降になるかと思います。それに向けて今、栗山赤十字病院や町内の開業医とこれからどういう体制で接種に入るかという準備を進めています。ただ、病院関係者の方は早くに打たれている方がいるので、その方が早ければ 11 月 15 日に 3 回目を打てることになります。皆さん接種受けた時に接種券が送られてきましたよね。病院に持って行って、接種するときにシール貼ってもらおうやつ。その発送準備に入っている状況です。栗山町内の接種状況が決まれば、接種券あるいは広報等で皆さんに周知する準備に入っております。早くとも 2 月中旬あたりから接種が始まります。

町民：早くに日赤の事、細かく説明してくれましたけど、その時町長さんは医師と事務関係

の人と住宅の面で町の方も充分に対応していきたいと言われたと思うんですね。夕張があったときは夕張の患者さんがたくさん来て日赤良かったと。夕張が閉鎖になったら、やはり患者さんがとても少なくなった。立派なお医者さんが栗山に住まいをかまえて、それから子どもがいた場合、子どもの施設環境も整えて、そういった多面的な有利な条件を整備してあげることが大切じゃないかと思うんです。そのことは栗山の人口が固定化するとか、医療関係が外に出ているのが多くなったのでは、栗山の人口に繋がらないと思うので、そういったことを忘れないで支えていただければと思うんです。

町長：前の懇談会の時にもご意見をいただきまして、たぶん今の栗山赤十字病院の先生方は札幌などから通いの方も多くいらっしゃると思います。今、ご提言ありました通り、やはりこれからの時代はますます競争と言ったらおかしい話になりますけれど、総合病院が生き残るためには、今言われた、患者もある程度確保していかなきゃならない。これは外来も入院もそうなんですけど。それをやっていくためには、ある程度お医者さんの確保も必要になってくるという中で、今後、また改築に向けて日赤との協議も色々あるものですから、その時に色々とお話をさせていただきたいと思います。まずはお医者さん方のニーズ把握をしなければならないということもありますので、そこはしっかり協議をさせていただきたいと思っております。そして今人口の話が出ましたのでお話しすると、栗山も今人口減が進んできているんですが、これまで積み重ねてきた色んな政策の中で人口減が少なくなってきました。4年前には1年間で299人、300人近く少なくなってるんですね。3年前には220人まで減少幅が減りました。2年前は187人、去年は160人。今年も去年の160人を下回るぐらいの減少数になるかなということで、人口減の割合が鈍化してきている。それはいろんな施策の効果が少しずつ出てきていると。人口増加までは変わっていきませんが、まずは我々が今人口減を抑えるということを主軸に色んな政策、亡くなる方を少なくする健康寿命の延伸政策にも力を入れていますし、逆に出生数を増やす。これは色んな子育て政策などをしっかりやっていくことによって増やしていく。そしてさらに転出転入。転出を減らすためには若い方の働く場を確保するとか、そういった政策。そして転入者を増やしていくためには、企業誘致もそうなんですけど、やはりいろんな関係人口だとかそういったものに投資をしていく。栗山駅の南交流施設、それもそういう目的の施設でありますけど、そういう総合的な政策を打ちながら何とかやってきております。今言われた社会減って言うんですね、転出転入の。それはかなり収まってきています。大体年間で30人ぐらいの減少に留めて善戦している状況です。ただ死亡される方が大体年間200人以上でして、生まれる方がどんどん減っている。コロナの影響もあって。だから50人いかないような状況になってきて、自然減がかなり多くなっているんですけど、社会減で善戦してるものですから、少しずつ収めてきているということなので、そういったところにも力を入れていきたいと思っております。

20：04 終了